

活動報告書(最終報告)

報告者氏名：知念 元喜 所属：沖縄県立西崎特別支援学校 記録日：2014年 2月 20日

【対象生徒の情報】

- ・学年 : 高等部1年生
- ・障害名 : 知的障害、自閉症
- ・障害と困難の内容
 - ・時間の見通しがもてずイライラしてしまう。
 - ・集中力を持続する事が難しい。
 - ・新しい環境や見た事のない人への対応に戸惑いパニックを起こす。
 - ・コミュニケーションや意思表示ができない。
 - ・着替えや歯磨きなど自立に関する取り組みが不十分なところがある。

自閉症である本生徒は、スケジュールの個別化やイラストによる指示や説明が必要である。日程や時間などに対して強いこだわりがあり、「今何をすべき時間なのか」「次は何をするのか」しっかりと理解させる事が必要である。細かい作業などは一度覚えると間違えることなく行う事ができるが集中力の維持に課題がある。(作業の内容にもよるが15分が限界)一方、自分が好きな行動(ブランコに乗る事やふたを手でくるくるとまわす行為等)に関しては時間を忘れて何時間でも繰り返し、その行動を止めようとするとうパニックを引き起こす事が何度もあった。

パニック時には教室を飛び出し、落ち着く場所(滑り台の上など)に走って逃げ、落ち着いた後も周りをもものすごい勢いで走り回り、なかなか教室に戻る事ができない状況である。

また、コミュニケーションや本人の意思表示の方法も確立しておらず、自分の思いが伝える事ができずにイライラしている事も多々ある。

【活動目的】

- ・当初のねらい

本人の課題克服(時間・意思表示・環境の変化)に向けiPadのアプリを使用し視覚的に活動を支援していく。自立に関する取り組みでは対象生徒の実態に合わせて、動画や写真等を用いデジタルブック(iBooks Author)を作成する。スモールステップにより生徒が自らの課題に取り組めるよう工夫し、繰り返し練習により定着を目指す。

- 時間の区別をしっかりと付けられるようにしたい
- 集中して取り組む時間を伸ばしたい
- 新しい環境への適応
- 意思表示方法とコミュニケーション手段の確立
- 自立に関する取り組み

- ・実施期間

平成25年4月～12月 12月以降に検証結果をまとめる

- ・実施者：知念 元喜

- ・実施者と対象生徒の関係：学級担当



対象生徒

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

- こだわりがとても強い生徒
- 作業の時間の見通しが持てなかったり集中力が保てないとき、自分のやりたい事があるときなど教室を飛び出したり、逃げ回ったりする。
- 新しい場所や人が苦手なパニックを引き起こす
- 自分の意思がうまく表現できない
- 自立に関する取り組み（着替え、歯磨き等）に課題がある。
- S-M 検査による社会生活年齢：2歳11ヶ月 意思交換：1歳8ヶ月

・活動の具体的内容

① 時間の見通しを付けるための time timer の利用

各教科で time timer を利用する事により時間を視覚的に理解させ、時間のけじめと約束をしっかりと守る事を定着させる。

その方法として、自分のやるべき行動を次の様に色分けした。

- 作業や自分で集中してやるべき仕事など・・・赤の time timer
- 先生の話や聞くときや自分で考える時など・・・青の time timer
- 休憩や休み時間、自分の好きな様に使える時間・・・緑の time timer
- その他・・・黄色の time timer



time timer

② 新しい環境に慣れるための動画・Face Time の活用

新しい環境に慣れるために学校内の行事においては事前学習として昨年のビデオを見せ、今から何を行うのかをしっかりとイメージさせる。また、沖縄県全体の知的特別支援学校の生徒が集まる体育大会では事前に Face Time を使用し他校との交流学习を行い、大会当日に人見知りする事なく様々な活動に取り組めるよう支援する。



③ 意思表示、号令・司会等のための Drop Talk の活用

朝の会の司会や号令等を自分の活動として行うために、「Drop Talk」を使用する。また、その使用方法に慣れ、興味を持ち始めたら自分の意思表示の手段としても Drop Talk を活用する。はじめは3つ程度の絵カードからスタートし、本人の定着の状況を見て、意思の表示の数がもっと増えそうな場合 iPad を使用する。



④ 自立のためのデジタルブックの活用

本人の自立活動の課題克服のために、校内研修班と協力しながらデジタルブックを作成する。

デジタルブックは iBooks Author を使用し、本人の課題に応じて写真や動画、音声などを効果的に入れ、スモールステップにする事によって本人がデジタルブックを使用し自分自身で課題を克服するよう工夫して作成する。



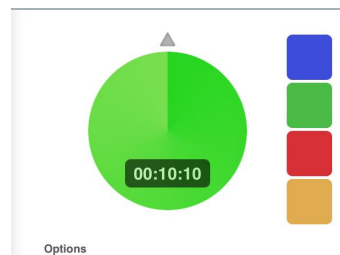
・対象生徒の事後の変化

①を通して (time timer の使用)

各教科で time timer を色分けして使用する事により、生徒は時間を視覚的に捉え、時間のけじめと約束をしっかりと守るという事の定着が図れた。

例えば、作業の時間において赤い time timer を使用し、15分間のペーパーがけを集中して行った後に、time timer を緑色に変え5分間の休憩を行うといった作業学習を年間を通して行った。その結果、生徒は作業をしながら何度も time timer を確認し、時間が来て音が鳴るまで集中して作業を行うことができるようになった。その後の休憩においても時間を確認しながら、絵本を読むなど自分の好きな事をリラックスして行う様子が見られた。

青と黄色の time timer においては設定はしたが、生徒の実態には合っておらず（静かに考える事が理解できない等）定着には至らなかった。



time timer の色分け

②を通して (Face Time の活用)

対象生徒は自閉症を有する生徒のため、環境の変化や行事等が苦手な慣れるまで時間がかかるため、行事に参加するのが困難であった。そこで、沖縄県全体の知的特別支援学校の体育大会が行われる前に Face Time を用いて他校との交流学习を行った。

交流は Face Time を必要に応じて他校とつなぎ、生徒が見やすいように大型テレビに接続して全部で4回行った。

- ① 自己紹介をしてお友達になろう！（Face Time 使用）
- ② 体育大会で実際に会ってお互いを応援しよう！
- ③ お互いの学校や学級、先生やお友達を紹介し、他校との違いを実感しよう！（Face Time 使用）
- ④ クリスマスカードや年賀状をお互いに送ろう！

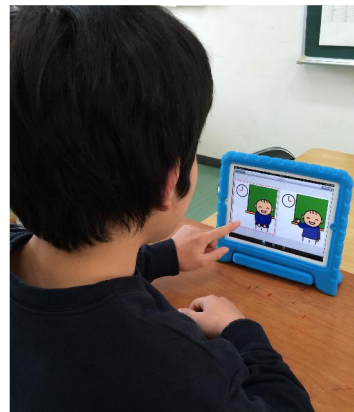
生徒は、Face Time を使用し事前に他校の生徒と交流を持った事により、当日、パニックになる事なく実際に会って握手をしたりお互いに応援をする事ができた。



③を通して (Drop Talk の活用)

はじめは iPad に全く興味を示さず触る事さえ嫌がっていたが、他の生徒や教師が使用している様子を見ているうちに徐々に慣れ、1学期の後半からは Drop Talk を用いて、教師と一緒に朝の会・帰りの会の司会を行ったり、授業時の号令などを行えるようになった。

Drop Talk は生徒の実態に合わせて最大で一画面に6個の絵を配置した。未だ自分ですべての操作を理解している訳ではないが、教師と一緒に、指示された絵を正確にタッチすることができるようになり、生徒の活動の幅が広がった。また、自己紹介のページを作成し、他校との交流や来客者が来た場合にも自分で自己紹介をする事ができるようになった。



意思表示やコミュニケーションにおいては、「水が飲みたい」と「トイレに行きたい」の2語の絵から練習を行っているが、言葉と行動とのマッチングができていない様子で未だに定着には至っていない。しかし、ある時、本人が「トイレ」と発したときにトイレに連れて行ったのをきっかけに「トイレ」とい

う言葉とトイレに行つて用が足せるという行動が一致したのか、3学期からは完全に理解し、トイレに行きたいときには自分の言葉で「トイレ」と言つてからトイレに行く事ができるようになった。

④を通して（デジタルブックの活用）

対象生徒の自立の課題として、着替え（裏表の確認、ボタンをきれいに閉める）歯磨き等があった。そこで本校の校内研修の ICT 班と協力しながらデジタルブック作りを行った。

デジタルブックは生徒自ら行えるよう、写真や動画、音声などをスモールステップで iPad 内に納められ、自分自身でめくりながら自立への課題等を行えるようになってる。

対象生徒に今回使用したのは、本校の小学部の先生が製作した「歯磨き君」というデジタルブックである。これは歯磨きの手順を大きな模型を使いながら順序よく取り組める教材である。

生徒は教師と一緒にしながら動画を見て順番を覚えているところであるが、実際に見て自分自身で操作を行えるようになるにはまだまだ時間がかかりそうである。（対象生徒の実態には合わなかった）

※デジタルブックは自分自身で操作する能力と、写真や動画を見て同じように模倣する技術が必要であり、それができる生徒にとって非常に有効であった。



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

○time timer や Face Time を活用することにより、（自閉症のある本生徒にとっては）様々な行動を視覚的に捉える事ができるようになったため、落ち着き安心して（パニックを起こす事なく）行動する事ができるようになった。

○はじめは触るのを嫌がっていた iPad であったが、Drop Talk の音声に合わせて何度もみんなで号令をかけることによって興味を持ち始め、進んで司会や号令等を行えるようになった。

○本生徒は写真や動画を見る事が好きで、集中して画面を見る事ができた。

【成果と課題】

[成果] ・時間を視覚的に捉える事ができ、安心して学校生活を送る事ができるようになった（パニック数が減った）

・ iPad に興味を持ち始め、Drop Talk を利用して朝の会等ができるようになった。

・（iPad による成果かどうかは分からないが）自分で「トイレ」といってからトイレに行く事ができるようになり、保護者もその成長にとっても喜んでくれた。

[課題] ・デジタルブックによる自立に向けた課題克服は本人の実態と合っていないく、まだまだ教師と一緒に練習する必要がある。

・FaceTime は時々電波の状況が悪くなり途切れる事があった。より確実な Wi-Fi 環境が必要である。

【今後の見通し】

○ 今後は生徒がより安心して学校生活や社会生活を行えるよう、視覚的に見通しが持てる環境設定を継続していきたい。自立に関する取り組みの繰り返し練習により定着を図りたい。

○ 今後は、今回の成果を基に time timer による色分けを学校全体（幼・小・中・高等部）で統一してやっていきたい。

○ 絵カードや iPad を使用して自分が意思表示できる数を増やしていきたい。

○ 本生徒は家庭でも iPad を購入したため、今後は学校と家庭との連携を図りながら、本人がパニックになることなく見通しを持って過ごせるよう支援していきたい。